

千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町 1-1
公益社団法人千葉県園芸協会
連絡先 043(223)3005
発行日 毎月 1 日
平成 29 年 3 月号

県産花植木の魅力 PR や花育活動に取り組んでいます

公益社団法人千葉県園芸協会 産地振興部
(千葉県花き振興地域協議会事務局)

千葉県花き振興地域協議会では、平成 28 年度に策定された「千葉県花植木振興計画」に沿って、花植木の展示等による PR や小学生を対象とした花育活動などに取り組んでいます。

1 はじめに

当協議会は、花植木の生産・供給体制の強化、輸出及び需要の拡大を通じて、生産振興などに資することを目的に、県、生産者団体、流通・小売業者、文化(華道)団体を構成員として平成 26 年に設立された団体です。今回は、平成 28 年度に、国産花きイノベーション推進事業を活用して実施した花育活動等の概要を御紹介します。

2 主な取組概要

(1) 学校での花育活動

小・中学校、高校等、合わせて 73 校で、花育体験授業を行いました。

学校の希望により、フラワーアレンジメント、生け花、花壇づくりのいずれかを実施したところ、再度、花に触れ合いたいと感じた生徒も多数に上りました。



花育授業(花壇づくり)の様子

(2) 花壇づくりコンテスト

幕張新都心エリアでは、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの一部競技が行われることから、国内外から訪れる方々をたくさんのおもてなし、また、その波及効果として

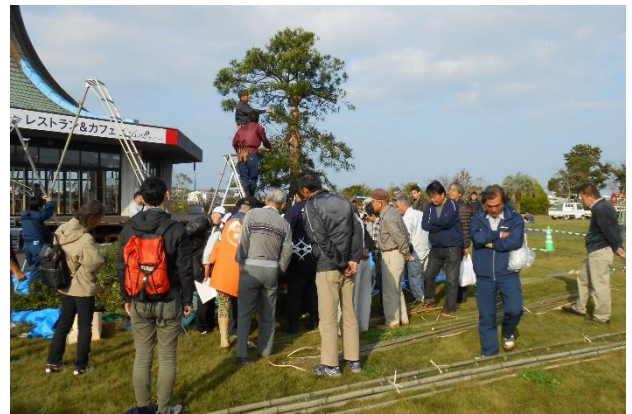
需要拡大が期待されています。

そこで、地域の 7 企業・団体の参加、及び商店街の協力並びに千葉市の後援の下、競技時期に合せた 7~8 月に、県内生産者が供給した苗を用いて、コンテストを行いました。いずれも、デザインを工夫したり、景観にマッチさせたりなど、個性あふれる出来栄となりました。

(3) 県産花植木の PR 活動

県民や国内外からの来訪者に、広く県産花植木の魅力を PR するために、商業施設や成田空港などで花や植木の展示を行いました。

また、伝統技術により造形される植木の魅力を伝えるため、道の駅みのりの郷東金において、東金市の「千葉県植木伝統樹芸士」によるデモンストレーションを行い、来場者の注目を集めました。



「千葉県植木伝統樹芸士」によるデモンストレーション

3 今後の取組について

次年度も、これまでの取組の反省も踏まえ、より効果的な県産花植木の PR や文化の継承など、継続して取り組んでいく予定です。



OTA花ステーションの概要と今後の花き物流

(株)大田花き ロジスティック本部 オンディマンド推進C
物流改善チームリーダー 渡辺 新之介

2016年12月15日、年末の最大需要期が目前に迫る中、OTA花ステーションが竣工いたしました。今回は、この新施設の概要と運用について、現場で実際に商品を取り扱う立場からの感想を交えつつ御紹介してまいります。

1 OTA花ステーションの概要

OTA花ステーションは、地上3階建ての荷捌き棟と、それに連結するスロープ棟で構成される物流施設です。延べ床面積12,000㎡、荷捌きスペースは約2,200㎡坪×2面で、2・3階部分は15℃±3℃の温度帯での低温（定温）保管倉庫となっています。人荷用EV、垂直搬送機がそれぞれ一基、4tトラック13台分のプラットフォームを備え、スムーズな荷の出し入れが可能です。

また、既存棟の自動分荷装置とローラーで直結しており、双方へ自動での荷の搬送を行います。



OTA花ステーション 外観

2 運用目的と今後の物流

(1) 鮮度保持

近年、花き物流において、積算温度の重要性が明らかになってきました。OTA花ステーションの低温（定温）倉庫により、産地から消費者までのコールドチェーンをキープし、鮮度保持に努めます。

(2) 早期入荷と商品お引き渡し時間の早期化

日頃から、物流の現場にて痛感することは「物流を伴って、はじめて商売が成立する」という基

本中の基本です。特に相対取引においては、どの業態の御客様からも、次の仕事の販売時間確保に向けて「早い荷揃え」への御要望を強くいただきますが、前日19時から翌0時の時間帯に入荷が激しく集中する現状では、なかなか御客様に御満足頂く荷揃え時間の実現がかないません。

OTA花ステーションによって、鉢物入荷と並行して、相当量の切花受け入れ態勢（連日荷受け）が整いました。販売時間の拡大、遠方の御客様への商圏拡大へ向けて、より多くの産地様にOTA花ステーションの低温（定温）倉庫への前々日出荷及び早期出荷を御声掛けさせていただき、商品お引き渡し時間の早期化を目指してまいります。

(3) 物流デポとしてのスペース提供

多店舗展開されている専門店様、転送の多い仲卸様など、御希望の御客様に、付帯サービス（有料）としてOTA花ステーション内のスペースを御提供いたします。検品サービス（荷揃い確認の代行）、枝番仕分けサービス（店舗ごとの仕分け）、小分けサービス（箱を開梱しての小分け）など、各種サービス（有料）と合わせて、より効率の良い物流の仕組みづくりを御提案いたします。

3 最後に

花き物流を取り巻く状況は、日々変化を続けております。特に少子高齢化による労働力不足は、ドライバー不足、荷下ろし作業の肉体的負担など、流通のあらゆる場面で影響を及ぼしています。産地、運送店など、関係者の皆様と力を合わせ、全体の効率化を図ることが何より重要だと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。



イチゴ新品種「チーバベリー」の育苗のポイント

農林総合研究センター 野菜研究室
上席研究員 深尾 聡

千葉県育成のイチゴ新品種「チーバベリー」は、大粒で形が良く、うどんこ病に強い特徴があり、平成 27 年に品種登録されました。大粒の果実を安定生産するためには充実した苗を作ることが重要になります。そこで、ポット育苗における栽培のポイントについて紹介します。

1 育苗のポイント

(1) 親株の準備

親株は 10 アール当たり 350~400 株を用意し、ランナーの発生を促すため、3 月上旬までにプランターに定植します。初期のランナーの発生は「とちおとめ」と比べて緩やかなので、親株からの採苗株数を増やしたい場合は、前年度秋に定植して、初期のランナーの発生を多くします。

(2) 育苗日数・ポットサイズ

定植時にクラウン径 9mm 以上の充実した苗を用いることで初期から収量を確保できます(図)。このような苗をつくるために 7 月中旬までに鉢受けします(写真)。鉢受けから 3 週間程度で切り離し、切り離しから定植までの育苗日数は 50~70 日を目安とします。鉢受けするポットのサイズは、7 月上旬までは苗の老化を防ぐために 9~10.5cm、7 月中旬は 7.5~9cm とします。

□11月 ■12月 ▨1月 ▩2月 □3月 □4月

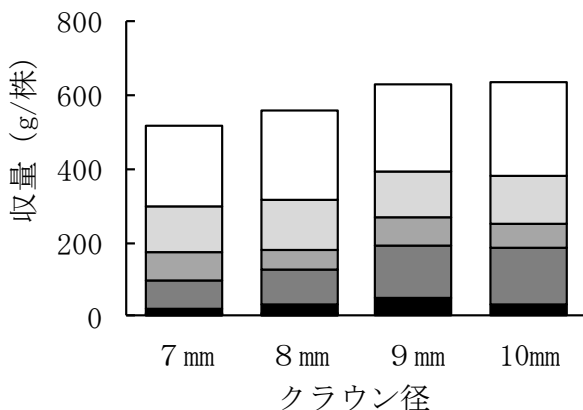


図 苗の大きさが収量に及ぼす影響
注) 平成 25 年 9 月 24 日定植

(3) 育苗時施肥量

「チーバベリー」は育苗後半に肥料切れが生じて心止まりしにくい特徴がありますが、肥料が少なすぎて苗の生育を十分に確保できないと、頂花房開花数が少なくなります。肥料過多では花芽分化が遅れるので、9cm ポット(培土由来の窒素成分 45mg 程度)を利用する場合、育苗中の施肥は株当たり窒素成分量 100mg (IB化成 S1 号中粒 2 粒程度)を標準とします。

(4) 病虫害防除

「チーバベリー」は、うどんこ病に強い特徴がありますが、炭そ病、萎黄病には抵抗性がないので、育苗期の防除、苗床の土壌消毒を徹底してください。

2 種苗の入手方法

千葉県内の生産者に限り、各 J A で種苗の購入が可能です。詳しくは、県ホームページで公開する予定です。



写真 育苗日数が異なる定植時の苗姿
(左から育苗日数 10 日、30 日、50 日、70 日、
クラウン径は 7mm、8mm、9mm、10mm)

頑張る産地



若手後継者が主体となった産地再生と経営規模拡大の取組

市原市農業協同組合

経済部 営農生活指導課 地引 秀太

市原市の西部地区(姉崎蔬菜組合)の生産者 15 名で栽培しているだいこんは、平成 19 年度に強い農業づくり交付金事業を活用し、関東で初めて共同洗浄・選別施設を導入し、完成から約 10 年で各生産者の経営規模が拡大しました。



栽培の拡大と出荷量の推移

選果施設導入前の平成 18 年度については、だいこんの出荷量は年間 30 万ケースでした。選果施設を導入し農家は栽培生産に作業時間のほとんどが当てられるようになり、平成 28 年度には 143 万ケースと当初の 4 倍強となり、平成 29 年度に関しては 150 万ケースの出荷量を見込んでいます。

また、生産農家の規模拡大の意志は高く、今後も生産量の増大に取り組んでいきます。

春だいこんでは「ちばエコ」認証も受け、今後も拡大していく予定です。



最高のだいこんを目指して

出荷前の査定会をはじめ、出荷が開始されると昼休みに毎日組合員が出荷場へ集まり、生育情報など情報交換を行い市場ニーズに合わせた出荷を行っています。また、選果基準についても一部生産者から「厳しすぎる」と言われたが、若手後継者や J A 職員の説得により堅持した結果、市場関係者からは「箱を開けて中身を確認する必要がない」と言われるほど高品質で均一なだいこんを出荷することができました。



施設増強による出荷量の拡大

平成 28 年度に、当初計画していた施設の能力では処理できないほどの生産となったために、施設の増強を行い、日量の出荷量を 3 割程度増加しました。

また、施設から出る残渣についても、環境に配慮し、残渣を粉砕し脱水する処理施設の設置を行いました。

これにより、圃場に還元する残渣の体積が 80%削減され、圃場の有効利用と環境保全に努めています。



30年後を見据えた産地の育成

選果部長(泉水 清一)がよく使う「30年後を見据えた産地」という言葉がある。「今が良くてもそれに甘んじてはいけない。常に将来を見据え、他産地との差別化を図り、先にいかなければ、姉崎のような小さい産地は潰されてしまう。」15人しかいない小さな組合が持つ、小回りが利く団結力。これをメリットと考え最大限に生かし、キャッチフレーズである「世界に誇る姉崎だいこん」の持続的な産地として更なる強化、発展を目指します。





南房総地域に適する枝物用樹種の選定

農林総合研究センター 暖地園芸研究所
野菜・花き研究室 室長 香川 晴彦

南房総地域に適し日持ち性が優れる枝物用樹種として、春ではツルマサキ「ハーレクィーン」、ノリウツギ「アナベル」、他 5 樹種・8 品種、秋ではアデク及びゴードニア、冬ではアリゾナイトスギ「ブルーアイス」及びオリーブ（「チプレッシーノ」等）を選びました。

1 はじめに

枝物は、1 度作付けると毎年収穫でき、管理も容易な植物が多く、品目や作型を組み合わせると周年出荷が可能です。古くから切り花生産が盛んな南房総地域は、観光・直売で賑わう観光地でもあり、枝物を地域特産品とすることで農家所得の向上や地域の活性化に寄与できると考えられます。そこで、管理が容易で日持ち性が良く、南房総地域の栽培に適する枝物用樹種の選定に取り組みました。

2 枝物用樹種の選定

平成 21 年 4 月に、直径 24~30cm ポットに仕立てた樹齢 3~4 年生の約 30 樹種を農林総合研究センター暖地園芸研究所の露地ほ場に定植しました。平成 25 年まで 4 年間栽培し、十分に生育することを確認した枝物 28 樹種・45 品種の中から、7 日間以上観賞できる日持ち性の良い樹種を選定しました。その結果、春に観賞する 7 樹種・10 品種、秋に観賞する 2 樹種、冬に観賞する 2 樹種・2 品種を南房総地域に適する樹種として選定しました。主な樹種の特徴について紹介します。

3 選定した 枝物用樹種の特徴

(1) ツルマサキ「ハーレクィーン」

ニシキギ科ニシキギ属の常緑性つる性植物で、原産地は日本、中国です。開花期は 6~7 月で白い花が咲きます。葉の色は白斑が混じった黄緑色ですが、冬になると薄紅色から赤色に紅葉します。半日陰に適し、耐寒性はやや強です。春から夏に葉が斑入りの枝物として出荷できます。

(2) ノリウツギ「アナベル」

アジサイ科アジサイ属の落葉低木で、原産地は北アメリカです。開花期は 5~7 月で花の色は咲き始めが緑色ですが、やがて白色になります。小花が集まり大きな球形になります。葉は薄く先が尖っています。半日陰に適し、耐寒性が強く -10℃程度まで耐えます。初夏に花を付けた枝物として出荷できます。

(3) アデク

フトモモ属の常緑高木で、原産地は中国南部及び九州南部等の亜熱帯地域です。初夏に白い小花をつけ、

果実は秋に黒く熟します。光沢のある小葉と、柔らかい枝が特徴です。耐潮性があり、日陰、乾燥にも強く海岸植栽にも適した樹種です。秋に実を付けた枝物として出荷できます。

(4) ゴードニア

ツバキ科ゴードニア属の常緑高木で、北アメリカ原産です。10 月~4 月にツバキに似た白花を多数咲かせます。樹高は高く葉は紅葉します。日向~半日陰で栽培が可能ですが、耐寒性がやや弱く寒風の直接当たる場所での栽培には不向きです。秋に紅葉した枝物として出荷します。

(5) アリゾナイトスギ「ブルーアイス」

ヒノキ科イトスギ属の常緑中高木で、原産地は北米です。葉は鱗状葉で灰緑色です。浅根性なので、定植直後は支柱への誘引が必要ですが、生長は早く、数年で成木になります。枝の再生力は強く日向に適します。耐寒性は強く根が凍らなければ越冬できます。初夏に葉の色を楽しむ枝物として出荷します。

(6) オリーブ（「チプレッシーノ」）

灰色を帯びた葉の色が美しい枝物です。イタリア・シチリア島原産で、オリーブ類の中では樹高がやや低いので枝の採取等の作業性が良い品種です。樹勢は強く、枝の再生力が強い樹種です。通年、枝物として出荷できます。

4 おわりに

今回選定した樹種は、南房総地域に適し、観賞価値が高く日持ち性の優れた枝物として有望です。今後、当地域において導入されることを期待します。



ノリウツギ 「アナベル」



第 66 回関東東海花の展覧会開催結果

生産振興課 園芸振興室

第 66 回関東東海花の展覧会が、2 月 3 日(金)～5 日(日)の 3 日間、サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区池袋）で開催されました。

花き品評会では、関東東海地区 1 都 11 県から花き生産者の技術の粋を集めた切り花や鉢花、観葉植物、洋らんなど 1,920 点（うち千葉県 216 点）の出品がありました。

本県の生産者 2 名が農林水産大臣賞を受賞した他、多くの方が入賞し、本県生産者の技術の高さがうかがえました（本県の受賞者は以下のとおり。）。

また、本展覧会は、消費者の花に対する理解を深め、一層の花の消費拡大を図ることを目的として開催されており、品評会の出展品や当番県（栃木県）による特別展示、フラワーデザインコンテストの作品等、様々な花で会場が埋め尽くされました。



来場者で賑わう展覧会会場

第 66 回関東東海花の展覧会 花き品評会千葉県内特別賞受賞者一覧（順不同）

特別賞名	部門名	氏名	住所
農林水産大臣賞	一般切花	平嶋 勝司	館山市
	一般鉢物	平野 晃久	旭市
農林水産省生産局長賞	球根切花	株金井園芸	南房総市
	一般切花	小澤 昌志	旭市
全国農業協同組合中央会長賞	一般切花	株金井園芸	南房総市
	花苗	市原 勝吉	千葉市
	洋らん	早川 光樹	南房総市
千葉県知事賞	球根切花	太田 喜明	館山市
農林水産省関東農政局長賞	観葉植物	古川 浩信	山武市
日本花き卸売市場協会会長賞	カーネーション	岩田 秀一	南房総市
	球根切花	能重 勉	南房総市
日本花き生産協会会長賞	球根切花	鈴木 健夫	君津市
関東地域花き普及振興協議会会長賞	カーネーション	安西 智	南房総市
各都県花き生産者団体連合会会長賞	球根切花	柏木 利道	富里市
誠文堂新光社「農耕と園藝」賞	一般切花	田村 比呂子	安房郡鋸南町
園芸文化協会会長賞	一般切花	吉田 孝	館山市
サンシャインシティ代表取締役社長賞	一般切花	渡邊 匡義	南房総市
家庭園芸肥料・用土協議会会長賞	一般鉢物	高橋 崇訓	千葉市
日本花き卸売市場協会首都圏支所長賞	カーネーション	軽込 亮	南房総市
	一般切花	宇山 定雪	南房総市
	一般鉢物	石井 孝	安房郡鋸南町
日本洋蘭農業協同組合会長賞	洋らん	椎名 正樹	旭市